



織田信長黒印状（徳川家康宛）

目 次

博物館のあゆみ

平成2年度	2
平成3年度	6
博物館の名品	10

博物館のあゆみ

平成2年度

館内業務

1. 特別展

○特別展「久能山東照宮の遺宝」

会期＝平成2年4月1日～6月30日

館蔵の甲冑・刀剣・染織・調度・書画の優品を展示。

○開館25周年記念特別展「徳川家ゆかりの女性たち」

会期＝平成2年10月27日～11月23日

徳川将軍家・御三家・御三卿・越前松平家の女性資料100余点を展示。共催は静岡新聞社・SBS静岡放送・全文連。協力は静岡鉄道。出品は徳川恒孝氏、徳川義宣氏、松平永芳氏、榊原政春氏、井伊直愛氏、阿部正道氏、波多野幸彦氏、(勲)徳川黎明会、(勲)水府明德会、(勲)前田育徳会、(勲)永青文庫、福井市立郷土歴史博物館、仙台市博物館、茨城県立歴史館、東京国立博物館、サントリー美術館、越葵文庫、護国寺。

○特別展「久能山東照宮の名宝」

会期＝平成3年1月1日～3月31日

館蔵の甲冑・刀剣等70点余を展示。

2. 「資料目録 徳川・松平家ゆかりの女性」の刊行

平成2年10月27日、開館25周年記念の一つとして、資料調査をまとめた「資料目録 徳川・松平家ゆかりの女性」を刊行した。発行部数2,000部。製作は(株)大塚巧藝社。(原色40頁・単色92頁図版、徳川・松平家の女性165名の遺品・遺墨目録)。

3. 資料の購入

平成2年10月4日、八条家文書10点を購入した。内容は以下の通りである。

○和宮親子内親王戯画(文久3年11月、江戸城火事の節の絵図) 1枚

○油小路隆前 神宮奉行雑録 1冊

○油小路隆晃筆写 礼服記 1冊

○八条隆聲 詠草控 1冊

○八条隆吉 光陰備忘 1冊

○八条隆吉 雑記 1冊

○享保九年公宴御会和歌 1冊

○享保十年公宴御会和歌 1冊

○大正四年御大典後能楽陪覧の節下賜謡本 1冊

○御大典饗宴舞楽目録 1枚

以上

4. 資料の撮影

平成3年2月8日、(株)大塚巧藝社写真部に依頼し、絲巻太刀拵(は一作太刀付属)の撮影を行った。

館 外 業 務

1. 資料の出品

- 春季特別展「堺鉄砲—その源流と背景をさぐる—」

会期・平成2年4月28日～5月27日

会場・堺市博物館

重文 火縄銃（付属品とも）、紺糸素懸威具足を出品。

- 「江戸東京400年記念日光街道展」

会期・平成2年5月30日～6月4日

会場・松屋浅草7階大催場

星兜（3代將軍家光所用）、大黒頭巾形兜（4代將軍家綱寄進）、太刀忠広作（太刀拵とも）、家光書「雪月花」を出品。

- 特別展「関ヶ原の戦い」

会期・平成2年7月20日～9月2日

会場・岐阜市歴史博物館

重文 歯朶具足、家康像、金扇馬標、大極旗、島左近の兜を出品。

- 「徳川慶喜とその時代展」

会期・平成2年8月9日～14日

会場・上野松坂屋

徳川慶喜所用卯花威胴丸・刀（平安城長吉作）・軍帽・鞍下等18件を出品。

- 特別展「日本美術の19世紀」

会期・平成2年9月1日～30日

会場・兵庫県立近代美術館

徳川慶喜筆「西洋風景」（油彩画）を出品。

- 企画展「秀吉・氏郷・政宗」

会期・平成2年9月22日～10月26日

会場・福島県立博物館

重文 火縄銃、家康像、織田信長黒印状、伝家康・信長・秀吉・清正手判を出品。

- 特別展「南蛮の美術」

会期・平成2年11月20日～12月2日

会場・埼玉県立博物館

重文 鋏・目器・鉛筆・けひきばしを出品。

- 「奈良の美術・日本の美術展」

会期・平成3年3月26日～5月5日

会場・ソビエト・レニングラード市国立エルミタージュ美術館

東照大権現像（伝狩野養信筆）・薙刀無銘直江志津作（蒔絵鞘とも）・葵紋絲巻太刀拵（14代將軍家茂所用）を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成2年5月29日

会場・静岡県立美術館

平成2年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。席上、松浦館長が会長に再任された。

3. 静岡県文化財保存協会総会

期日・平成2年6月22日

会場・静岡県立中央図書館

平成2年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

庶務報告

1. 平成2年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	6,843	1,021	2,274	3,173	610	58	13,979
5月	7,580	1,290	3,285	2,978	765	76	15,974
6月	4,586	280	2,719	2,994	441	47	11,067
7月	4,516	460	1,224	1,820	388	24	8,432
8月	7,361	2,201	257	1,987	627	184	12,617
9月	5,084	339	1,273	4,804	462	49	12,011
10月	7,239	553	3,681	1,753	673	224	14,123
11月	9,184	706	3,306	2,032	586	325	16,139
12月	1,933	269	116	2,846	30	13	5,207
1月	8,362	1,064	508	228	325	24	10,511
2月	6,694	572	1,007	2,055	441	52	10,821
3月	8,655	1,261	1,313	1,348	700	72	13,349
計	78,037	10,016	20,963	28,018	6,048	1,148	144,230

2. その他

○4月1日・30日, 6月17日, 7月1日, 8月5日, 9月2日, 10月7日, 11月11日, 12月16日, 1月20日及び3月17日 臨済寺史編纂研究会に小林学芸主任が出席。

○4月12日 日本テレビが重文歯朶具足・洋時計及び鎗長吉作を撮影。

○4月14日 静岡市のユネスコ講座で小林学芸主任が講話。

○4月26日 博物館2階のシャッターを修理。

○5月2日及び23日 博物館の防犯装置を新調。

○6月4日 “日光街道展”の資料撤収に小林学芸主任が出向。

○6月18日 静岡放送が重文洋時計を取材撮影。

○9月7日 県刀剣審議員及び文化課職員等5名が当館の国指定刀剣を特別拝観。

○9月8日 日本美術刀剣保存協会横浜支部員28名が当館の刀剣を特別拝観。

○9月21日～22日 展示室の一部を板塀とした。

○9月24日 和歌山の川口隆晴氏が重文木太刀を特別拝観。

○9月27日 清水市の有度公民館の依頼で小林学芸主任が講演。

○10月5日 徳川美術館開館55周年記念式典に館長代理で小林学芸主任が出席。

- 10月6日 「ヴァン・ダイク展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 1月26日 防火訓練を実施。
- 2月28日 日本テレビが家康像と重文びいどろ壺を取材撮影。
- 3月1日 「オリエントリズムの絵画と写真展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- その他 この期間に下記の人々が来館した。

北見登氏(大塚巧藝社, 4月3日), 松下靖彦氏(日本テレビディレクター, 4月8日及12日), 鵠田孝一氏(大塚巧藝社, 4月17日及2月8日), 岩泉正巳氏(東京ルネッサンス推進委員会, 4月18日), 井浜明氏(堺市博物館, 4月20日), 小沢正実氏(鎧司, 4月26日), 瀧本浩成氏(岡崎市議会事務局長, 4月26日), 都築末二氏(岡崎市議会議長, 4月26日), 静岡ファクター20余名(5月11日), 木下直之氏(兵庫県立近代美術館学芸員, 5月19日), 松平乗昌氏(霞会館, 5月24日及6月7日), 柳田直美氏(東京ルネッサンス推進委員会, 5月24日及6月7日), 山田磯夫氏(埼玉県立博物館, 5月25日・11月9日及12月11日), 柳正博氏(埼玉県立博物館, 5月25日), 五味和文氏(静岡放送報道部, 5月31日及6月18日), 村田和男氏(堺市博物館, 6月6日), 鈴木俊夫氏(静岡放送報道部, 6月15日及18日), 藪下浩氏(岐阜市歴史博物館学芸員, 7月13日), 浦井正明氏(徳川慶喜展実行委員会, 8月6日及17日), 尾崎信一郎氏(兵庫県立近代美術館学芸員, 8月23日及10月4日), 白水正氏(岐阜市歴史博物館, 9月5日), 中央大学大学院生22名(9月10日), 伊藤正義氏(福島県立博物館学芸員, 9月14日), 斎藤茂氏(ヤマト美梱, 9月14日・10月26日・11月10日及23日), 佐藤洋一氏(福島県立博物館, 11月1日), 小野真一氏(加藤学園, 11月4日), 栗原澄子氏(国学院栃木短大教授, 11月10日), 足立尚計氏(福井市立郷土歴史博物館学芸員, 11月21日), 金田幸枝氏(東京企画, 1月11日), 徳川斉正氏(水府明徳会会長, 1月14日), 安本収氏(駿府博物館学芸員, 1月15日), 吉田宏志氏(大和文華館, 1月19日), 山下晃氏(県埋蔵文化財調査研究所, 1月26日), 杉山知太郎氏(奈良県立美術館, 2月8日及26日), 宮崎隆旨氏(奈良県立美術館学芸課長, 3月9日), 西澤芳夫氏(松坂屋染織デザイン研究所長, 3月22日), 岩村年隆氏(兵庫県立但馬文教府主任文化専門員, 3月25日)。

平成3年度

館内業務

1. 特別展

○「徳川将軍家の名品展」

会期＝平成3年4月1日～6月30日

館蔵の国宝太刀真恒・重文太刀無銘三池・日根野形兜等70余点を展示。

○「徳川将軍の遺品展」

会期＝平成3年7月1日～9月30日

館蔵の重文徳川家康遺品を中心に展示。

○特別展「久能山東照宮の宝物」

会期＝平成3年10月1日～12月31日

館蔵の重文日根野形兜・太刀銘国行等の名品を展示。

○特別展「徳川将軍家の遺宝」

会期＝平成4年1月1日～3月31日

館蔵の重文鞍、着籠小袴等の優品を展示。

2. 刀剣類定期手入れ

平成3年9月17日、(財)佐野美術館副館長渡辺妙子氏の手により館蔵刀剣類の定期点検手入れが行われた。

3. 甲冑の修復

平成3年6月10日～10月30日、鎧司小沢正実氏に依頼し、茶絲威具足（2代将軍秀忠所用）を修復した。

4. 資料の寄贈

平成4年2月8日、富士市の栄立寺宮崎慈恭氏より大鈴1箇の寄贈を受けた。

5. 資料の購入

平成4年3月14日、京都思文閣より彦根藩主井伊直弼筆の和歌短冊「いとうしみ云々」1幅を購入した。

6. 重文洋時計の音の公開

平成3年7月19日高校総体静岡大会を記念し、当館文化財の顕彰にも役立てるため、重文洋時計（家康愛用）を録音し、入館者がその音色を鑑賞できるように音の装置を取り付けた。

館外業務

1. 資料の出品

○「奈良の美術・日本の美術展」

会期・平成3年3月26日～5月5日

会場・ソビエト・レニングラード市国立エルミタージュ美術館

東照大権現像（伝狩野養信筆）・薙刀無銘直江志津作（蒔絵鞘とも）・葵紋絲巻太刀拵（14代将軍家茂所用）を出品。

○特別展「武將の装い」

会期・平成3年9月14日～10月27日

会場・仙台市博物館

重文金陀美具足、縹絲威具足（綱重所用）、白絲威具足（6代將軍家宣所用）、白麻具足下・浅葱麻具足下（綱重所用）、藍筋格子模様具足下・白黒ラシャ陣羽織（6代將軍家宣所用）を出品。

○特別展「戦国合戦と武将たち―信長・秀吉・家康―」

会期・平成3年10月5日～11月24日

会場・兵庫県立歴史博物館

重文歯朶具足・目器・脇息・耳盥・手拭掛、金扇馬標、大極旗を出品。

○特別展「武士と信仰」

会期・平成3年10月12日～11月11日

会場・千葉県立総南博物館

後水尾天皇宸翰神号（軸・額）、東照大権現像（天海賛写）、久能山総絵図、徳川秀忠・家光文書、日光山御祭礼図絵、日光山諸景勝図画を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・平成3年5月21日

会場・静岡県立美術館

平成3年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

3. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・平成3年6月13日

会場・岐阜市岐山会館

平成3年度総会が開催され、小林学芸主任が出席。席上、小林学芸主任が館運営の功績で表彰された。

4. 全国博物館大会

期日・平成3年12月9日～10日

会場・国立教育会館・東京国立博物館

第39回大会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。席上、小林学芸主任が協会規程1号により顕彰された。

5. 静岡県文化財保存協会総会

期日・平成3年6月27日

会場・静岡県立中央図書館

平成3年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

庶務報告

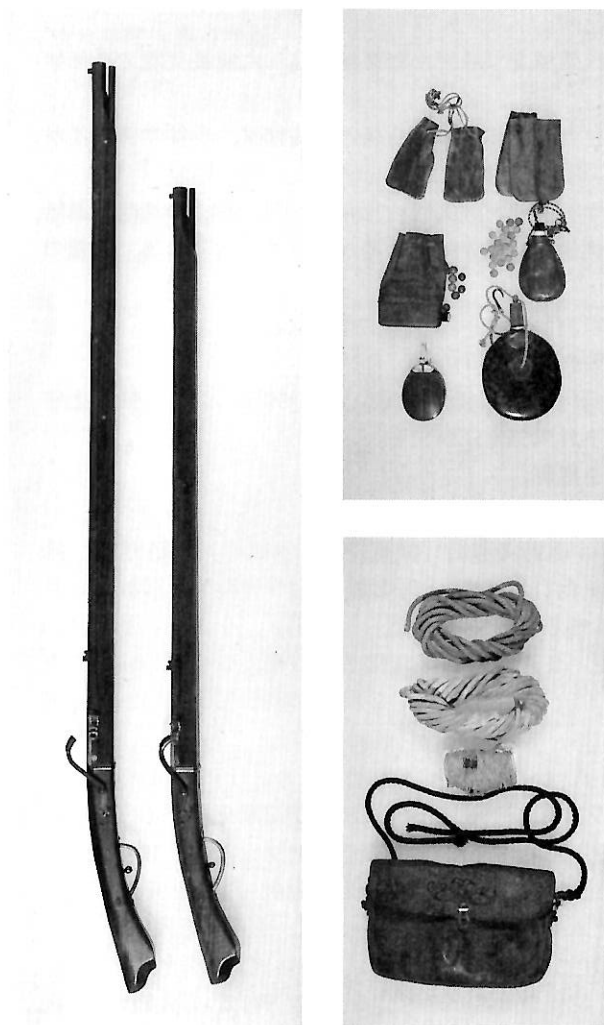
1. 平成3年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	7,546	972	2,642	1,911	625	76	13,772
5月	9,601	1,754	3,034	2,126	1,033	92	17,640
6月	5,911	278	1,975	2,660	509	48	11,381
7月	4,804	507	1,167	1,305	528	125	8,436
8月	9,054	2,252	1,640	1,619	1,794	43	16,402
9月	6,019	447	1,148	4,030	534	74	12,252
10月	5,976	200	3,582	1,636	940	65	12,399
11月	7,842	535	3,163	1,220	962	75	13,797
12月	3,836	302	652	2,050	364	17	7,221
1月	9,171	1,373	255	914	416	71	12,200
2月	8,585	693	642	2,103	537	51	12,611
3月	10,154	1,518	912	1,901	942	29	15,456
計	88,499	10,831	20,812	23,475	9,184	766	153,567

2. その他

- 4月16日 「エルミタージュ美術館名品展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長、小林学芸主任が出席。
- 4月19日 中京テレビが重文洋時計を取材・撮影。
- 4月28日, 5月26日, 6月23日, 7月7日, 8月24日, 9月22日, 10月27日, 11月24日, 12月15日, 1月19日, 2月11日及び3月22日臨済寺史編纂研究会に小林学芸主任が出席。
- 5月1日 清水港湾博物館の竣工式典に松浦館長が出席。
- 5月10日 私立美術館の有志の会(於徳川美術館)に小林学芸主任が出席。
- 5月11日及び1月18日 静岡県史近世部会(於静岡県産業経済会館)に小林学芸主任が出席。
- 5月20日 SBSプロモーションが重文洋時計を録音。
- 5月24日・11月19日及び2月24日 県文化財保存協会の会報編集会議に小林学芸主任が出席。
- 5月28日 日博協主催の公私立館長会議(於東京国立博物館)に松浦館長が出席。
- 7月25日 「日光東照宮展」(於静岡松坂屋)の開会式に松浦館長、小林学芸主任が出席。
- 7月27日 「栗原忠二展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 8月17日～23日 静鉄ロープウェイ主催の「久能山東照宮の歴史を学ぶ会」に協力。
- 8月30日・9月27日及び11月30日 静岡県史の史料調査で小林学芸主任が清水市に出向。
- 9月6日 静岡市が市内観光用の映画制作の為、当館の協力を求め、当館の家康遺品等を撮影。

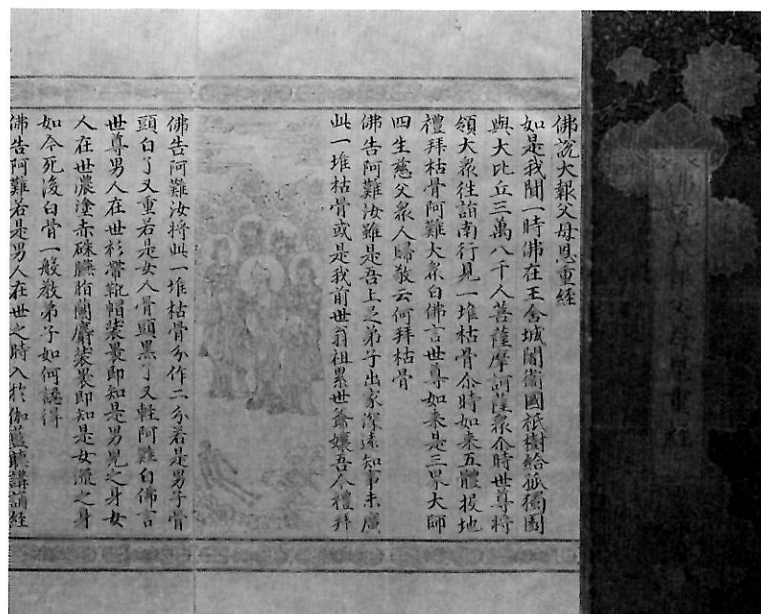
- 9月25日 長年に亘り、当館所蔵刀剣類の手入れに従事された刀剣研磨師池田猪太郎氏の葬儀に館長代理で小林学芸主任が出席。
- 10月5日 故東海大学総長松前重義氏追悼会（於清水市東海工高）に館長代理で小林学芸主任が出席。
- 10月9日 「頼朝と鎌倉文化展」（於佐野美術館）の開会式に松浦館長、小林学芸主任が出席。
- 10月31日 静岡市南部公民館で小林学芸主任が「久能山東照宮と徳川家」の演題で講話。
- 11月27日 T V C 山本が、徳川將軍画像の寛永寺献納に関わるビデオ製作の為、当館の將軍遺品・遺筆17点を撮影。
- 12月11日 国立歴史民俗博物館の資料評価会に小林学芸主任が出席。
- 1月29日 えふぶんの壺が重文薬事資料を撮影。
- 2月29日 県文化財保存協会主催の「歴史と文化教養講座」（於静岡県庁。講師元文化庁監査官、工藤圭章氏）に松浦館長、小林学芸主任が出席。
- 3月5日 共同テレビが重文洋時計を撮影。
- その他 この期間に下記の人々が来館した。
 鶴田孝一氏（大塚巧藝社、4月17日）、東野英心氏（俳優、4月19日）、本吉正宏氏（総南博物館学芸員、5月15日、10月6日及11月28日）、川嶋辰彦氏（学習院大学教授、5月17日）、木村重圭氏・松井良祐氏（兵庫県立歴史博物館、6月6日、9月30日及11月29日）、増田亮雄氏（静岡県私学協会長、6月14日）、宮崎隆旨氏（奈良県立美術館学芸課長、6月18日）、徳川康久氏（7月6日）、中根義雄氏（松平東照宮宮司、7月13日）、溝口将人氏（静岡新聞社記者、7月26日）、吉水氏一行（静岡新聞社、7月27日）、井上裕氏（文部大臣、7月31日）、相曽朝子氏（SBS静岡放送記者、8月5日）、嘉藤美代子氏（仙台市博物館学芸員、9月5日及11月2日）、石田弘幸氏（静岡県史編さん室、10月2日）、大石益光氏（静岡新聞社社長、10月10日）、斎藤茂氏（ヤマト美梱、10月30日）、荒木圭氏（NHK衛生事業部、12月12日）、西源二郎氏・柴田勝重氏（東海大学海洋科学博物館、12月21日）、原口元利氏（えふぶんの壺プロデューサー、1月12日及29日）、佐藤豊三氏（徳川美術館学芸課長、1月13日）、浜岡伸也氏（石川県立歴史博物館学芸員、1月21日）、和歌山県田辺町史編さん関係者6名（2月17日）、湯浅隆氏（国立歴史民俗博物館、2月21日）、太田伸氏（共同テレビ、3月5日）、森崎昌弘氏（西日本武具甲冑研究所、3月28日）、加藤博司氏（㈱エポス、3月28日）。



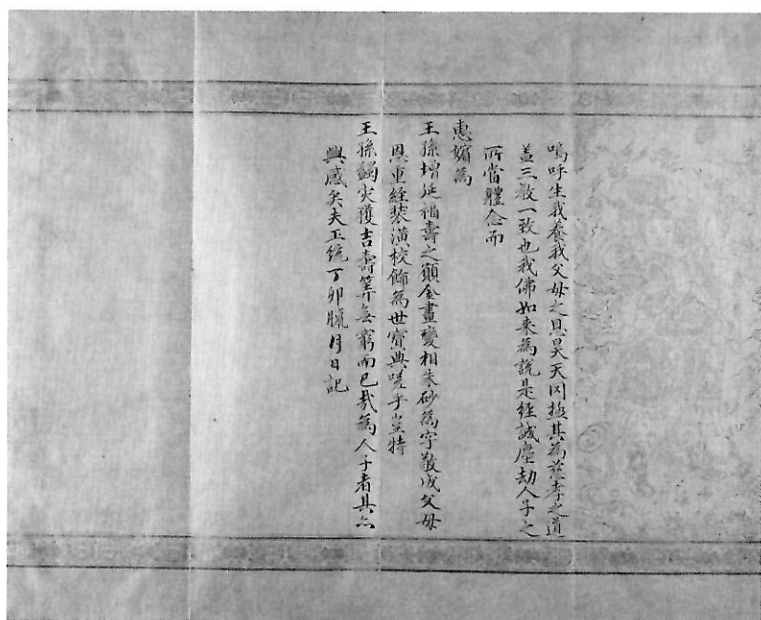
博物館の名品 13

重文 火縄銃（徳川家康関係資料）

家康は織田信長同様、火縄銃に早くから注目した武将であった。『常山紀談』には家康が武田の浪人より火縄の製法を聞いた話が載せてある。後年、家康が細川忠興の旧臣稲富一夢斎を召し抱えたことも砲術師稲富の名声を聞き及んでいたからであろう。家康はこの稲富の尺長の鉄砲を操縦してその大力ぶりを発揮したり、慶長十六年（1611）八月には浅間社・駿府城内で鉄砲を放ち、櫓上の鳶を仕留めたと記録にある。本品は家康の由緒品として伝わる二挺の火縄銃で、鉄八角形の銃身の元に葵紋と(一)に花文、(二)に火縄が金象嵌され、同底部にはそれぞれ銘文があって、(一)は南蛮鉄と播磨国宍粟産の鉄とをあわせて作ったことがしれるが、ともに小野善四郎清堯作に係る。清堯はのちに繁慶と改名し刀工に転じた。尚、この火縄銃には火薬入二口、玉入六口、火縄二把、間縄（胴乱入）一卷が付属し、弾丸二十九個ものこる。(一)総長140.5 銃身長105.8 口径2.2cm (二)総長120.5 銃身長89.2 口径2.1cm



帖首



帖尾

博物館の名品 14

重文 朱書父母恩重經（朝鮮本）〈徳川家康関係資料〉

折本装の父母恩重經の朝鮮写本である。奥書により正統丁卯（1447）臘月（12月）に書写されたことがわかる。表紙に薄紅地金泥蓮花，銀泥宝相華唐草文を描き，金泥双廓内に金字で外題を「以佛說大報父母恩重經」と書している。本文は金界中に半面六行，一行二十字に朱書され，文中に金泥で変相図が描かれている。縦36.4 横11.1cm



博物館の名品 15

重文 朝鮮版 和剤局方〈徳川家康関係資料〉

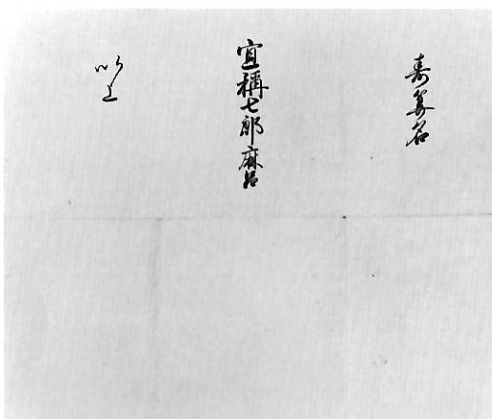
朝鮮の銅活字本になる「和剤局方」で全十巻を六冊に収める。表紙は薄茶花文蠟箋で、内題は「増註太平惠民和剤局方卷之『幾』」と掲げ、版式は四周単辺で半葉十二行、行十九字、註双行とし、巻第十の尾題前に「大徳甲辰（8年）」の元版本刊記がある。この医薬本は二重箱に納められていて、外箱に「久能御書物、和剤局方、六冊」、内箱に「養安院」の墨書がある。伝来によれば、宇喜多秀家が朝鮮の役で入手し、のちに夫人の奇病を治した医師曲直瀬養安院正琳に遣わし、正琳がこれを将軍秀忠に献じ、さらに秀忠より家康へ贈られたものであるという。尚『皇國名醫傳』に「神祖（家康）晩節尤留心於濟生、據和剤局方、製良薬、以賜諸臣」とみえており、家康が和剤局方に據り、製薬していたことが認められる。縦27.3横18.9cm。



博物館の名品 16

紅絲威八方白星兜 徳川吉宗所用

奈良の春日大社に伝来する紅絲威梅枝金物の鎧に付属する十六間八方白星兜の模造品で、春田故明の作になる。真向の三間に銀メッキの地板を伏せ、金地の篠垂を三条伏せる。篠垂は金の小刻二重とし、中央十三個、左右十二個の白星には小刻一重を打つ。後の三間には銀の座金を据え、篠垂二条を伏せる。左右とも十二星。中央の笠印の鍔は金銅で、鍔頭は梅文とし、小刻、菊座を打つ。総角は紅角八打の付け房である。左右の六間にも銀の座を伏せ、篠垂二条を打つ。白星は左右十二個。地板の四方は各二間で、黒漆塗の星十二個と小刻付きの白星一個を打つ。斎垣は金銅で猪の目入り。頂辺は銀玉縁、小刻三重、菊座一重、金銅梅樹に蝶の高肉彫座で飾る。腰巻は金銅で、腰巻下に真向の三間とその左右の一間を除き、各間に添い金星の小刻座を打つ。前四間目の篠垂下に響孔を金鷄目小刻付で入れる。後部も同様。眉庇は銀覆輪に地章を風神雷神に雲の染章とし、五星章の小縁をめぐらし、紫紺白の伏縫を施す。表面中央に玉眼入りで金銅高肉彫の獅嚙の鍬形台を付ける。長鍬形は欠失。三光鉾は銀で金銅小刻、銀菊座を打つ。鞆は笠鞆の五段下りで四段を深く折りたわめて吹返し、紅絲で毛引に威す。吹返の地章、小縁、伏組は眉庇同様とし、小縁の鉾止めは十個で金銅小刻、銀菊座を打つ。上下には梅樹に蝶の高肉彫を据え、菱板の裾金物は五個で、中央と先端は吹返と同様にし、他は梅樹の金銅高肉彫である。耳絲は亀甲、畦目は小石打、菱縫は紅二行とする。鉢付鉾は四個で、小刻は金銅、菊座は銀。八双金物は四ヶ所で銀八双座に金銅梅樹高肉彫を打つ。鉢裏は全体を熏草で包み、眉庇裏は藻獅子の地章に五星章の小縁、伏組付とする。忍緒は三所付で鉄の丸鍔黒漆焼付とするが、緒は欠失。鞆は紫草であがき止めにし、鉾止めは熏草張とする。総重量6000g。高15.6 鉢廻り70.4cm



童名



字並花押



名字



號

博物館の名品 17

徳川斉昭書出 (童名・名字・字並花押・號)

水戸藩主徳川斉昭(1800~1860)が、その子慶喜に授けた命名書である。一般に物を授ける時の目録に折紙を用い、折紙を拝領することが物を戴く習わしになっており、命名もこれによったものであろう。この種の折紙は、字を中央にして三折とするのが通例の折り方であり、本書も作法に叶っている。四通とも斉昭の自筆と認められ、(一)は慶喜の童名を七郎麻呂と名付けたもので、「寿算名、宜稱七郎麻呂、以上」とあり、(二)は弘化四年八月十五日付で七郎麻呂を昭致と名乗らしめたもの。昭致は翌月、一橋家を相続し、十二月には慶喜と改名している。(三)は慶喜に子邦の字と花押を、(四)は同じく興山及び経綸堂の號を授けたもので、(三)(四)ともにその名の根拠を書き添えている。(一)童名 縦53.1 横65.9cm (二)名字 縦44.0 横3.3cm (三)字並花押 縦37.9 横52.7cm (四)號 縦37.9 横51.7cm



博物館の名品 18

刀 銘 平安城長吉作 曆應二年八月日 徳川慶喜所用

鍋造り庵棟の刀で、反りは浅く中央反り、中鋒が延びる。鍛えは板目流れて杓がかり、やや白けごころ、刃文は直刃、沸よくつき、喰違、掃かけ交じり、金筋、砂流かかる。帽子は直ぐに丸く返り先掃かける。彫物は表が棒樋に添樋、元に草俱利迦羅、裏は棒樋、元に護摩箸を彫る。茎は舟形で先が浅い栗尻。鍔目切。目釘孔は三つ。この刀は『非蔵人日記』元治元年九月五日条に「一橋中納言別段於御学問所御対面於御前御太刀長吉一振御衣等拝領」とみえており、禁門の変の軍功を賞されて孝明天皇より一橋慶喜が拝領したものであることが知られる。

身長68.3 反り1.2 茎長16.6cm

菊桐紋糸巻太刀拵 徳川慶喜所用

平安城長吉作の刀に附随する糸巻太刀拵である。柄と鞘の渡巻の巻下は緑地菊文金欄の錦で包み、その上を黒糸で菱巻とする。鐔は葵形。鞘は梨子地に菊と桐紋を表裏とも四箇交互に金蒔絵し、渡巻を柄巻を柄巻同様として亀甲打ちの佩緒を添える。総金具は金小縁の赤銅魚子地に金の菊桐紋を高彫し、帯取は紫韋で太鼓形につくり、前に菊、後に桐紋の金具を据えている。

全長102.6 柄長24.4 鞘長77.0cm

久能山東照宮博物館報
—— 第 12 号 ——
平成 4 年 7 月 15 日 発行
編集発行 久能山東照宮博物館
〒422 静岡市根古屋390
TEL. 054(237) 2 4 3 7